



# 米FOMCは景気判断引き上げと12月の利上げを示唆

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明文で従来通りの金融政策方針を維持し、次回12月会合での利上げを示唆。
- FOMCはハリケーンによる混乱の中でも米国景気の現状判断を引き上げ、7-9月期の米GDPは底堅い成長を維持。
- 米メディアは、連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長にジェローム・パウエル理事が指名内示を受けたと報じる。
- パウエル理事はイエレン体制の穏健路線を支持しているとみられ、慎重な金融緩和の解除が継続される公算高まる。

## FOMC声明文は12月の利上げを示唆

米連邦公開市場委員会(FOMC)は11月1日(現地時間)、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を1.00-1.25%で据え置く決定を下しました。

FOMC声明文では、「段階的な金融政策スタンスの調整により、経済活動は緩やかに拡大し、労働市場環境も幾分強まるだろう」との従来通りの金融政策方針が維持され、次回12月12-13日のFOMCでの利上げが示唆されました。

## FOMC声明文は米国景気の現状判断を引き上げ

また、FOMC声明文では、「ハリケーンに関連した混乱にもかかわらず、経済活動は堅調に拡大している」と言及され、米国景気に対する現状判断が引き上げられました。

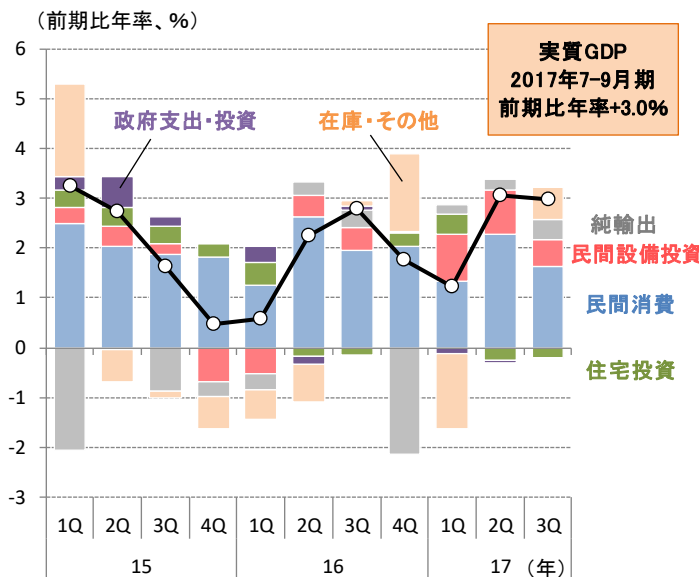
実際、2017年7-9月期の米国の実質GDPは、民間消費や民間設備投資、純輸出などに支えられ前期比年率+3.0%の底堅い成長が維持されました(図1)。また、コンファレンス・ボードが公表した10月の米消費者信頼感指数も2000年12月以来の高水準となるなど、消費者心理の楽観姿勢が強まる傾向にあります。

## 次期FRB議長にパウエル理事が指名される公算

米メディアは、連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の後任として、ホワイトハウスがジェローム・パウエル理事に指名の内示を出したと報じました。パウエル理事は緩やかな利上げを志向するイエレン体制の穏健路線を支持しているとされ、2018年2月の議長交代後も慎重な金融緩和の解除が継続される公算が高いとみられています。

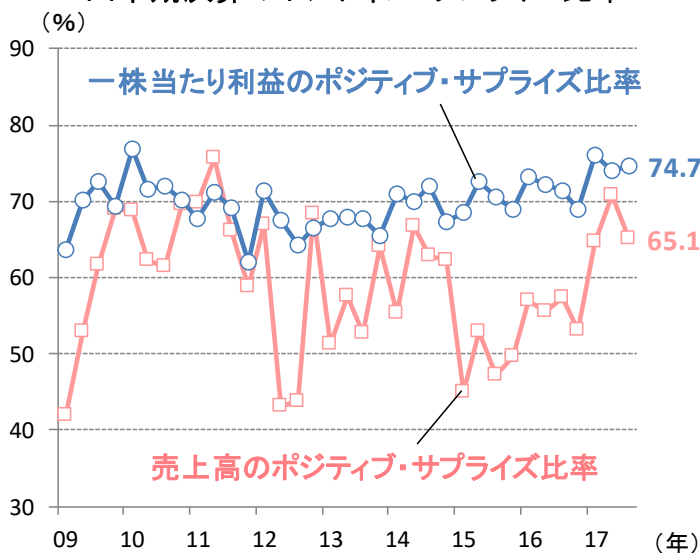
足元の米国株は2017年第3四半期の好調な米企業決算に支えられ最高値圏に上昇しています(一株当たり利益、売上高ともに市場予想を上回る傾向、図2)。議長交代に伴うFRBの穏健路線の継承は、金融環境の面でも米国株の下支え要因になると期待されます。

図1: 米国の実質GDP成長率の寄与度分解



(出所)米商務省経済分析局 (期間)2015年1Q~2017年3Q

図2: S&P500指数採用銘柄の四半期決算のポジティブ・サプライズ比率



(出所)ファクトセット (期間)2009年1Q~2017年3Q

(注)ポジティブ・サプライズ比率は一株当たり利益または売上高が市場予想を上回った銘柄の比率。2017年3Qは11月1日時点。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。